

## 丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

農業を学び、新たな担い手となる

### 水野陽一さん vol.36

経歴：明石市出身。介護施設勤務から一転、半農半公の地域おこし協力隊2期生として、多品種の野菜の栽培に取り組む。

任期：平成29年4月～



こんにちは。半農半公の地域おこし協力隊として勤務している水野です。明石市から移住して2年7カ月が過ぎました。

丹波市での暮らしにも慣れてきましたが、まちを歩き、住民の方と話をすると、昔の生活や歴史など、丹波市の良さを新たに発見することがあります。農業や日々の生活の中で新しいことを知り、様々な人とめぐり会えたことが、研修生活一番の収穫かもしれません。

実習では、今年は黒大豆を中心に栽培しました。そのほかにも、野菜や米の栽培管理、機械の操作など色々な経験をさせていただき、知識が深まったと感じています。

任期も残り少なくなりました。退任後は、有機栽培で少量多品種の野菜の栽培に挑戦し

たいと考えていますが、うまくいかないこともたくさんあると思います。今後も地域の方や実習先の皆さんにお世話になることが多くあるとは思いますが、今までの経験や学んだことを生かして、地域のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。



大根の除草作業をする水野隊員

### 市長コラム 丹波語り

#### 「多様性」と 「寛容性」



ある中で「意見を一つにまとめるのは容易ではない」とため息をついている暇はありません。ひたひたと押し寄せる人口減少下で、気づかないうちに取り返しのつかない状態にならないよう、今この時にこそ子孫に誇れる街づくりの礎を固めなければなりません。

そこで一息ついて、突如思い出したのが金子みすゞの詩の1節「みんなちがってみんないい」です。まさに多くのご意見がある「多様性」にじっくり耳を傾け、少数意見であっても何らかの形で受け容れる「寛容性」は欠かせません。ただし急迫する環境に立ち向かう「スピード感」も求められます。体が引き裂かれるような緊張感を感じながら、この言葉を胸に、「総仕上げ」に取り掛かりたいと思います。



丹波市長 谷口進一